



踊りの一切を伝授された第14代踊手が
四門をくぐる



江刺区

晴れやかに伝統継承を祝う

金津流石関獅子躍第14代を相伝

江刺区の稲瀬地区に伝わる金津流石関獅子躍の第14代相伝式（伝授式）が9月25日、同地区石関農村公園で関係者、来賓、地域住民ら大勢が見守るなか、古式に倣い厳かに執り行われました。

同踊りは昭和30年を最後に途絶えていましたが、平成13年に保存会を結成。9人の踊り手が伝承を目指し、熱心に稽古を重ねてきたものです。中立を務める安部靖さんは「精進を重ね、後継者の育成と石関獅子躍の発展に尽力する」と決意を新たにしていました。

水沢区

後藤寿庵の功績を記念碑に

後藤寿庵福原就封400年記念事業

後藤寿庵福原就封400年記念式典（同実行委員会主催）が9月11日、水沢区西田の寿庵廟で開催されました。式典には関係者ら約400人が出席。記念碑の除幕や記念植樹などで功績をたたえました。

その後、市文化会館で寿庵についての講演会や市内ホテルにおいて祝賀会を開催。参加者は、寿庵の功績を後世まで伝えることを誓っていました。胆沢平野を今なお潤す寿安堰を建設した後藤寿庵。その偉大な功績は、これからも色あせることはありません。

除幕された寿庵の福原就封400年記念碑



前沢区

トップアスリートから伝授

早稲田大学競走部ランニング教室

早稲田大学競走部（渡辺康幸駅伝監督）による、市内の小中学生を対象としたランニング教室が9月10日、前沢グリーンアリーナで開催されました。同部は昨年に引き市内で合宿しており、教室の開催は3回目。

部員の軽妙な会話で、会場は大盛り上がり。参加者はレクリエーションを楽しみながら、早く走る秘訣を教っていました。常盤小学校から参加した富永珠久さん（5年）は「リレーで競走部のお兄さんと一緒に走れたのが楽しかった」と目を輝かせていました。



部員とレクリエーションを楽しむ参加者たち



陸奥話記に関する齊藤教授の話に聞き入る参加者たち

衣川区

平泉文化の歴史を歩き学ぶ

奥州平泉の源流、衣川を歩く

衣川地区振興会連絡会（伊藤敏男会長）が主催する「平泉の源流衣川を歩く」が9月25日、サンホテル衣川荘を中心に開催されました。

約30人の参加者は現地を訪れ、陸奥話記などの歴史書に記述されている情景が、現在に残っていることやどのように書かれているかを学びました。講師の弘前大学齊藤利男教授は「清衡誕生や源義経最期の地など、歴史的事実があった」という説を語り、参加者は平安時代に思いをはせていました。

胆沢区

目指せコンサートマスター

奥州ジュニアオーケストラスクールが開校



バイオリンのサイズを合わせる奥州ジュニアオーケストラスクール受講生

NPO法人胆沢文化会館自主事業協会（村上輝夫理事長）が主催する「奥州ジュニアオーケストラスクール」の開校式が9月10日、胆沢文化創造センターで行われました。これは、市内の児童生徒による管弦楽団の設立を目標に、アンサンブルの基礎を学ぶものです。

この日は、受講生や保護者、講師ら約60人が初顔合わせ。バイオリン22人、チェロ2人のメンバーが、来年3月の発表会を目指し、月3～4回のレッスンに取り組みます。初めてバイオリンを手にした熊本伶央君（衣川小1年）は「バイオリンでいろんな曲を弾いてみたい。たくさん練習して、上手に弾けるようになりたい」と目を輝かせていました。

江刺区

生誕の碑建立、決意新たに

豊田館に「清衡公生誕の碑」を建立

江刺区の豊田館跡公園で9月17日、「藤原清衡公生誕の碑」除幕式が行われました。この碑は、史跡の保存整備に取り組む餅田史跡保存会（菊地勝一会長）が建立したものです。

石碑は、小沢昌記市長の揮毫による、高さ150㌢、幅90㌢の大きさで黒色の自然石。あいにくの雨の中、地元住民や関係者、来賓ら約50人が出席。神事を通して石碑の完成を祝うとともに、奥州藤原氏の発祥の地となる史跡の保存継承に誓いを新たにしていました。

関係者、来賓らが花火の合図で除幕



一斉にスタートする人間ばんば

水沢区

みんなで挑むダートレース

「ときわの日」人間ばんば大会

常盤地区センターイベント実行委員会（川邊慎二委員長）主催によるイベント「ときわの日」が9月25日、水沢競馬場を会場に開催されました。

この日は好天に恵まれ、地区民ら約450人が参加。人間ばんば大会では、小学生の部や行政区の部などに分かれ、80～300㌢の重量があるそりを5～7人で引いてタイムを競いました。参加者は、日常なじみのない砂の上でのレースに悪戦苦闘。集まった多くの観客からは、大きな声援が飛び交っていました。